

市議団速報

e-mail:info@jcp-niigata-shigidan.com NO131

2016年3月5日
日本共産党
新潟市議会議員団
電話 025-226-3450
FAX 025-223-7748

― 2月議会で平あや子議員が一般質問 ― 原発再稼働問題、非正規労働者の 正規化等について市長の見解をただす



平あや子議員

3月1日の本会議で、日本共産党議員団の平あや子議員は柏崎刈羽原発の再稼働問題、市民の声を活かした「地方版総合戦略」づくりについて一般質問を行いました。

「豆腐の上の原発」は世界一危険な原発

柏崎刈羽原発は深さ2000〜3000mに及ぶ軟弱な地層の上に立地した、いわば「豆腐の上の原発」であり、施設周辺で発生する可能性がある最大の揺れの強さを表す「基準地震動」は2300ガルと全国の原発の中で群を抜いています。さらに同原発は、敷地内に20〜30万年前に動いた断層

が直下も含め23本も存在するうえ、7基821万キロワットにおよぶ世界一の集中立地であり、同時多発事故の危険性も指摘されています。

平あや子議員は、柏崎刈羽原発は地盤が軟弱で巨大な地震が襲う可能性のある、世界一危険な原発であると指摘し、「いったん事故が起きれば取り返しのつかない被害が予想される同原発の再稼働は許されないと考えるが、市長の見解はどうか」とただしました。

篠田市長は、「原発の再稼働には、より確かな安全が必要であり、今まで一貫して、福島原発事故の原因究明と総括を訴えてきた。現在もその立場に変わりはない」と答えました。

新潟市ふくむ市町村の同意なしに再稼働できないルール化を安全性が担保されない「新規制基準」に合格したとして、全国で次々と原発が再稼働しています。柏崎刈羽原発6、7号

機も審査が山場を越えたと言われています。

平あや子議員は、6、7号機が新規制基準に適合した場合、81万市民の命を預かる市長としてどう対応するのか、少なくとも、新潟市を含む市町村の同意なしに再稼働できないことをルール化するために、県内市町村の先頭に立って力を尽くすべきだと市長に迫りました。

市長は、「柏崎刈羽原発は福島原発と同じ東電が運転している。なぜ事故が起きたのか検証することが重要だと、あらゆる機会をとらえて、強い決意で申し上げていく」と答弁しました。

事故が起きれば新潟市にも影響―避難計画の策定を

県が行った柏崎刈羽原発で重大事故が起きた際の放射性物質拡散シミュレーションでは、原発から60キロ離れた新潟市の一部（西蒲区、南区、秋葉区など）にも影響があることが明らかになりました。

平あや子議員は、影響が及ぶ恐れのある本市は、具体的な避難の検討を始めるべきで、原発が再稼働しなくても、大量の使用済み核燃料がある限り、原発事故と放射能の危険は続く指摘。早急に避難計画をつくるよう求めました。

非正規雇用の正規化に数値目標をもつて取り組むべき

平あや子議員は、国のキャリアアップ助成金に上乗せ補助を行って民間企業の非正規労働者を半減させようとしている東京都などの例も参考にしながら、非正規雇用の正規化について長期ビジョンを持ち数値目標も明らかにして取り組むと同時に、地方版総合戦略に位置づけ、「来年度は正規雇用を何人増やす」など、具体的な数値目標を設定して早急に雇用対策にとりかかるべきだと提案しました。

市の経済部長は、「東京都や金沢市、秋田市など他都市の取り組みと成果を調査・研究し、本市の実情に合った効果的な施策を検討していきたい」と答弁しました。

